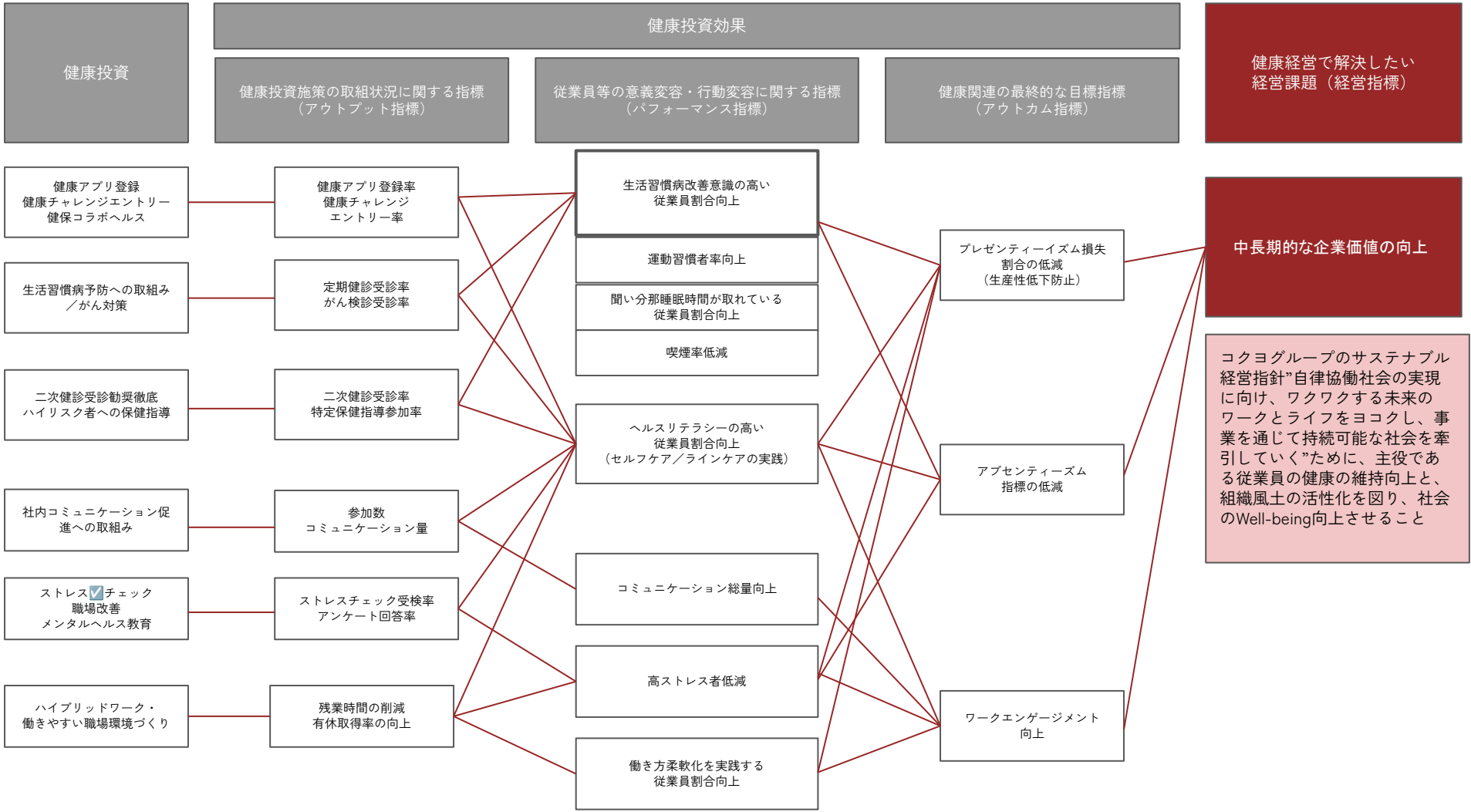




指標	ワークエンゲージメント	プレゼンティズムの喪失割合	特定保健指導参加率	歩行習慣	健康アプリの登録率
課題	現状の自社のワークエンゲージメント指標は、直近でB-（偏差値70）との評価となっている。 全国平均値(2024年:52.7)を上回る状態を維持しつつ更なる向上を図っていく。	世間平均に比してプレゼンティズムによる損失が大きい。 過去データから残業時間とプレゼンティズムに強い相関が確認できており過重労働対策を軸に、まずは世間同等水準を目指す。 ※東大1問方式	高齢化に伴い、健康状態に課題がある社員が増えているが、その中でも特定保健指導未受診の割合が高い。 生活習慣病リスクを低減させるためにも、まずは特定保健指導参加率100%を目指す。	歩行による生活習慣病の予防につながるという結果があるため、将来の生活習慣病患者数の減少につなげるべく、まずは歩行習慣を向上させていく。 （日常生活で歩行または同等の身体活動を1日1時間以上実施している）	健康意識の醸成のため、健康保険組合と協同し日々の歩数や食事、睡眠、運動に対する情報提供を健康アプリを通して行っていく。
目標値	B-(偏差値71)	15	100%	70%	70%
当初値 (2023年)	C+(偏差値69)	—	22%	56%	38%
前年値 (2024年)	B-(偏差値70)	—	81%	54%	48%
現在地 (2025年)	B-(偏差値70) ※3月時点	31.2			

指標	年次有給取得率	長時間労働撲滅
課題	現状の自社のワークエンゲージメント指標は、直近でB-（偏差値70）との評価となっている。 全国平均値(2024年:52.7)を上回る状態を維持しつつ更なる向上を図っていく。	過重労働状態の社員が発生しており、担当業務により労働時間に大きな偏りが生じている。 休日出勤時の振替休日取得の徹底および、業務の平準化および標準化を行うことで業務時間の適正化を図っていく
目標値	100%	15時間
当初値 (2023年)	57%	17.6時間
前年値 (2024年)	72%	18.2時間
現在地 (2025年)		